

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Cancer incidence and mortality attributable to alcohol consumption. 飲酒に起因するがん罹患と死亡		
執筆者		
Praud D, Rota M, Rehm J, Shield K, Zatoński W, Hashibe M, La Vecchia C, Boffetta P.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2016 Mar 15;138(6):1380-7. doi: 10.1002/ijc.29890.		
キーワード	PMID	
がん、飲酒、寄与危険割合	26455822	
要 旨		
<p>目的： 飲酒は疾病や死亡の主要な原因といえる。我々は 2002 年に、全部位のがん罹患の 3.6% に飲酒が寄与することを報告した。本研究では、この先行研究を 2012 年時点のデータを用いて更新することを目的とした。</p>		
<p>方法： 世界のがん罹患・死亡の推計値と World Health Organization(WHO)の飲酒と健康に関する大規模調査によって得られた飲酒情報、そして、メタアナリシスによって得られた飲酒関連がんの相対リスクに基づき、2012 年までのがん罹患・死亡への飲酒の寄与について検討を行った。</p>		
<p>結果： 10 年間に飲酒が寄与しているがん罹患は、世界で約 770,000 人(がん罹患の全数の 5.5%、男性 540,000 人、女性 230,000 人)と推定された。がん死亡は、世界で約 480,000 人(がん罹患の全数の 5.8%、男性 360,000 人、女性 120,000 人)と推定された。これらの推定値は、西太平洋地域(WHO の地域区分)、ヨーロッパ地域、東南アジア地域で特に高くなっていた。</p>		
<p>結論： がん罹患やがん死亡に関して、飲酒に寄与する割合は非常に高い。公衆衛生の指針は、過度の飲酒を制限することに向けられるべきである。</p>		